

開催要項



古物画讃（パネル展示・天理図書館蔵）

第1章

古墳をめぐる好古と考古

江戸時代、高安地域の群集墳は「千塚」として『河内名所図会』に描かれ、須恵器や勾玉などが掘り出されていました。出土品は、古物を愛好する好古家たちの手にわたり、遠く江戸まで運ばれています。

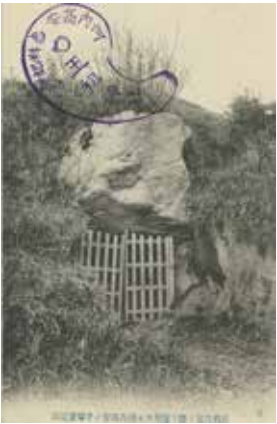
明治時代になると、海外から招かれた技術者（お雇い外国人）たちが古墳の調査に訪れ、日本の近代考古学の草創期に、測量図や写真などの貴重な記録を残しました。そののち、八尾の郷土史家たちの活躍によって、高安地域の古墳の全容が次第に明らかになっていきました。



八尾市古墳台帳（館蔵）



河内名所図会「千塚」（館蔵）



絵葉書「古代穴居ノ跡ト伝称スル河内高安ノ千塚愛宕山」（個人蔵）



土手山古墳出土 鉄地金銅張杏葉（泉福寺蔵）



神立地区出土 須恵器 器台（泉福寺蔵）

第2章

王たちの古墳－地域首長墓の造営－

高安地域には古墳時代をとおして、前方後円墳など地域を支配した有力者の古墳がつくられました。なかでも、心合寺山古墳は中河内地域最大規模の前方後円墳で、三葉環頭大刀や導水施設形埴輪などが出土しています。また、大阪府下最大級の石室をもつ円墳、愛宕塚古墳からは、振り環頭大刀をはじめ多様な武器や馬具などが出土しました。



郡川東塚古墳出土 画文帯神獸鏡（個人蔵）



鏡塚古墳出土 石櫃蓋（大阪府立八尾高等学校蔵）



郡川墓尻出土 玉類（個人蔵）



花岡山古墳出土 円筒埴輪（大阪府立八尾高等学校蔵）



心合寺山古墳出土 甲冑（館蔵）



心合寺山古墳出土 三葉環頭大刀（館蔵）
撮影：京都国立博物館

第3章

山麓に築かれた群集墳－高安の千塚－

古墳時代後期（6世紀）になると、高安地域の山麓に横穴式石室の円墳が数多くつくられます。とくに、高安千塚古墳群の範囲（大窪・山畑・服部川・郡川）には、200 基以上の円墳が分布し、約半数が国史跡に指定されました。

また、近代の開墾によって山麓の古墳から出土した大刀、須恵器、馬具などが、今も旧家や社寺で大切に守り伝えられています。

郡川地区出土 須恵器 器台（個人蔵）



芝塚古墳出土 銀象嵌刀装具（館蔵）

森田山古墳出土 金銅装圭頭大刀（館蔵）



服部川地区出土 馬鐸（個人蔵）



森田山古墳出土 須恵器（泉福寺蔵）



長者の箸塚古墳出土 須恵器 装飾付子持器台（大阪城天守閣蔵）